

ガザミはどの齢期から右利きか？

ワタリガニ科に属するガザミは、北海道から台湾まで分布し、波が穏やかな内湾の水深約 30m までの砂泥域に生息している。肉食性で、小魚、ゴカイ、貝など、様々な小動物を捕食する。大型個体では、^{かんきやく} 鉗脚(以下、ハサミ)を用いて、アサリ等の貝を砕くことができる。



ガザミにアサリ等の堅い餌を与えると、約 8 割が右で割ろうとしたことから、ガザミに右利きが多いことを以前に紹介した(水産研究所だより、第 379 号、平成 23 年 3 月)。

では、ガザミはいつから右利きなのか。

ガザミは、ゾエア幼生でふ化し、その後、数回脱皮して全甲長(甲羅の長さ)3mm 弱のメガロパ幼生となり、更に脱皮して親と同じ姿の第 1 齢稚ガニになる。



メガロパ以降はハサミをもっており、貝割試験を行うには殻径 0.5mm 以下の極小さい貝が必要だが、このサイズの貝の入手は困難であった。そこで、冷凍オキアミを充填した樹脂製チューブ(内径 0.1×外径 0.3mm)で人工器具を作製し、メガロパ及び第 1 齢稚ガニに与え、左右どちらのハサミを使って砕こうとするかを観察した。メガロパ、第 1 齢稚ガニともに、約 9 割の個体が、右のハサミで人工器具を砕こうとしたことから、ガザミはメガロパの段階で既に右利きと分かった。

(内水面研究室：増成)

